

招待講演2 略歴

座長

富家 隆樹 (ふけ たかき)

医療法人社団富家会 富家病院 理事長・院長

■ 略歴 ■

1991年	帝京大学医学部 卒業
1998年	医療法人社団ふけ会 理事長就任
1999年	医療法人社団富家会富家病院院長就任
2004年	医療法人社団富家会 理事長就任
2006年	社会福祉法人樹会 理事長就任

役職

日本慢性期医療協会 常任理事・事務局長

埼玉県慢性期医療協会 会長

地域包括ケア病棟協会 理事

全国デイ・ケア協会 理事

演者

ウスビ サコ (Dr. Oussouby SACKO)

京都精華大学 前学長

全学研究機構長

人間環境デザインプログラム教授

■ 略歴 ■

マリ共和国生まれ。国費留学生として北京語言大学、南京東南大学で学ぶ。91年来日、99年京都大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程修了。博士(工学)。専門は空間人類学。「京都の町家再生」「コミュニティ再生」など社会と建築の関係性を様々な角度から調査研究している。京都精華大学人文学部教員、学部長を経て2018年4月同大学学長に就任(～3月2022年)を経て現職。

主な著書に『「これからの世界」を生きる君に伝えたいこと』(大和書房)、『アフリカ出身 サコ学長、日本を語る』(朝日新聞出版)など。2025年日本国際博覧会協会 副会長・理事・シニアアドバイザー 兼任他。

IL2

多様性を重んじる共生社会の中での医療支援の在り方

京都精華大学 教授

ウスビ サコ

長く付き合っているはずの患者さんやご家族だけでなく、同じ施設で働くスタッフ同士とでさえもこちらの思いが伝わらず、誤解を生んでいることがないだろうか。

たとえば、病院で働く若手や管理職、さらにその上の経営者など、それぞれの世代や立場によって価値観は異なっている。その上、SNSに代表されるデジタル世代などは、時には文章にもならない短い言葉で表現するなど、コミュニケーションの内容やパターンも変わってきている。このような状況で、「空気を読むこと＝発言しないこと」としてしまうと、お互いを理解し合うことはできない。

個が集まり、チームとして行動するとき、それぞれが当事者として相手を知り、理解し、認め合うためのアクションを取らなければ、全体の力を発揮することは難しい。

本講演では、日本の大学初のアフリカ系学長として、地域や学生たちとの共生社会を築いてきた講師が、お互いの多様性を認め、ギャップを埋めるコミュニケーションのヒントを提示する。